



2026年3月30日

各位

会社名 TREホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 阿部 光男
(コード:9247 東証プライム市場)
問合せ先 執行役員経営企画本部長 大島 伊貢
(TEL. 03-6327-2622)

リバー株式会社「市原ダスト再資源化施設(仮称)」の開設について

当社連結子会社のリバー株式会社(本社:東京都墨田区、代表:松岡直人、以下「リバー」)は、千葉県市原市で展開する「TRE 環境複合事業」構想において金属資源高度選別事業を担う「市原ダスト再資源化施設(仮称)」の開設を決定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 設立背景

当社は2022年9月、千葉県市原市に賃借した広大な土地で大規模な廃棄物処理・再資源化を推進する「TRE 環境複合事業」構想(以下「市原構想」)を発表しました。市原構想は、①廃プラスチック高度選別・再商品化事業、②産業廃棄物破碎選別・再資源化事業、③金属資源高度選別事業、④廃棄物焼却・発電事業の4事業で構成されています。総投資額は400億円を見込んでおり、事業の中核を担う各種設備・プラントについては2026年以降順次、操業開始を予定しています。

そしてこの度、③金属資源高度選別事業の事業拠点として、当社グループの㈱タケエイが市原市八幡海岸通に保有する事業用地の一部を活用し、新たに「市原ダスト再資源化施設(仮称)」(以下「当事業所」)の設立を決定しました。なお、本計画は環境省が公募する「令和7年度脱炭素成長型経済構造移行推進対策費補助金(先進的な資源循環投資促進事業)」の「廃プラスチック」分野にて交付が決定しております。

2. 市原ダスト再資源化施設(仮称)について

本計画は、市原市八幡海岸通にある約21,600㎡の事業用地において、使用済自動車由来のシュレッターダスト(以下「ASR」)と、それ以外のシュレッターダスト(以下「SR」)の高度選別・再資源化に特化した施設を開設するものです。

当事業所では、日本トップクラスの大型破碎機を保有する市原事業所から排出されるSR・ASRを中心に年間60,000トンを取り扱う予定で、その半数にあたる30,000トンを金属やプラスチックなどの未利用素材の回収、およびRPF(固形燃料)の製造を通じて効率的かつ安定的な再資源化を目指します。

同事業所の立ち上げにより、自動車由来の再生プラスチックを筆頭に、近年急速に需要が高まる再生材や化石燃料代替ニーズに応えることで収益基盤の強化を図ります。また、運搬費含むダスト処理費の削減、および処理フローの最適化を通じて、企業競争力のさらなる向上につなげていきます。なお、本件が今期業績に与える影響は軽微です。



完成予想図(市原ダスト再資源化施設(仮称))

■事業所概要

施設名	リバー株式会社 市原ダスト再資源化施設(仮称)
住所	千葉県市原市八幡海岸通 74-41
敷地面積	21,600 m ²
主要設備	破碎機、粒度選別機、磁力選別機、風力選別機、浮沈選別機、減容固化機
総工費	76 億円
操業開始	2028 年 4 月頃
予定扱数量	60,000 トン／年 ※うち約 30,000 トンを再資源化予定

3. 今後の展望

当社は、2024 年5月に第2次中期経営計画を発表し、「WX(Waste Transformation)環境企業への挑戦」(※)を掲げました。千葉県市原市を舞台に、産官学の垣根を超えた“共創”で大規模な資源循環を実現する「TRE 環境複合事業」構想は、まさに当社が推進する「WX」を体現する取り組みであり、当社グループの中長期的な成長ドライバーとして位置づけるものです。当社は今後も「WX」で廃棄物の可能性を最大化することで、高度循環型社会、および脱炭素社会の実現に取り組んでまいります。

※ 従来資源化の難しかった廃棄物・使用済製品等について、廃棄物処理の技術的・採算的課題を克服し、資源やエネルギーへと変換する取り組みであり、動脈・静脈の枠組みを超えた“共創”により高度循環型社会、脱炭素社会の実現を目指すもの

以上